

————— JCR グリーンローン評価 by Japan Credit Rating Agency, Ltd. —————

株式会社日本格付研究所（JCR）は、以下のとおりグリーンローン予備評価結果を公表します。

## ダイワ・グリーンファイナンス・プログラム信託 ABL (熊本菊池太陽光発電所)に予備評価 Green 1 を付与

発行体	: ジェイバリュー信託株式会社
評価対象	: ダイワ・グリーンファイナンス・プログラム信託 ABL (熊本菊池太陽光発電所)
分類	: 信託 ABL
発行額	: 最大 92 億円
貸付実行日	: 2022 年 4 月 28 日 (予定)
信託満了日	: 2040 年 3 月 31 日 (予定)
償還方法	: スケジュール償還
資金使途	: 太陽光発電設備の取得資金等

### <グリーンローン予備評価結果>

総合評価	Green 1
グリーン性評価 (資金使途)	g1
管理・運営・透明性評価	m1

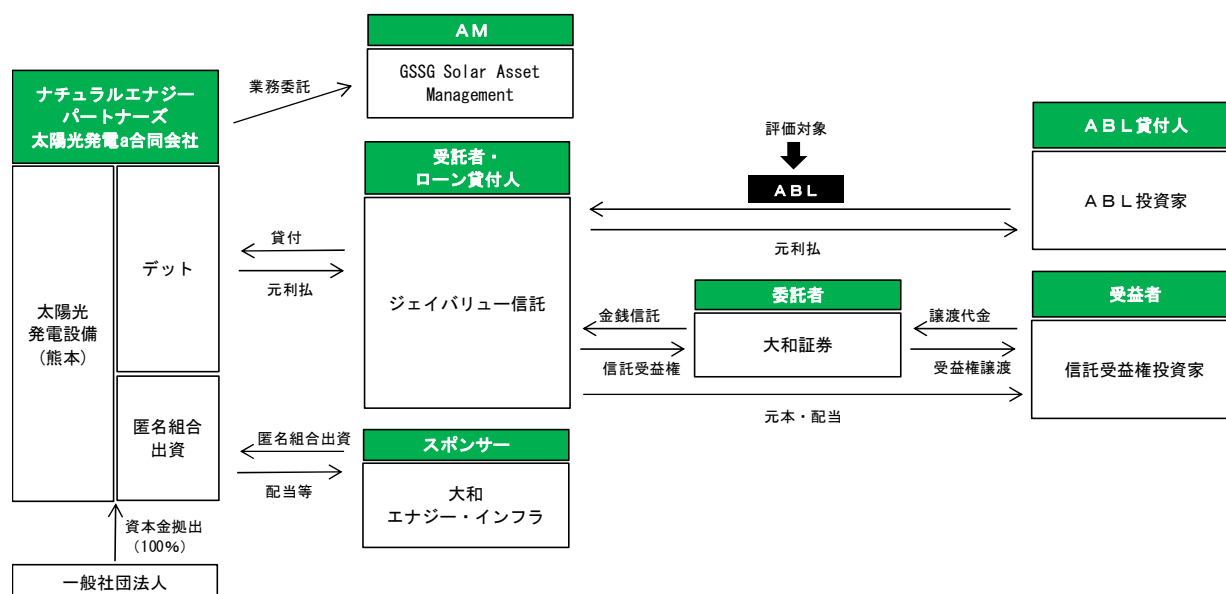
## 第 1 章: 評価の概要

大和エネルギー・インフラ株式会社は、株式会社大和証券グループ本社 100%出資の子会社であり、SDGs×テクノロジーの観点に基づいたエネルギーへの投融资推進による未来社会創造の支援を目的として発足した。大和エネルギー・インフラは大和 PI パートナーズのエネルギー投資部門を前身として 2018 年に営業を開始しており、再生可能エネルギー、インフラストラクチャーおよび資源分野への投融资を通じた「新たな価値」の提供と SDGs への貢献を目指している。大和エネルギー・インフラは投資残高の約 6 割（2021 年 12 月現在）を国内外の太陽光発電をはじめとする再生可能エネルギーに投資しており、同分野への積極的な投資姿勢を今後も継続する予定である。現在までに開発・投資を行った太陽光発電所は合計約 468MW、バイオマス発電所は合計約 20MW に及ぶとともに、完工済の再生可能エネルギープロジェクトはすべて安定稼働しており、再生可能エネルギーを通じた環境に対する取り組みは着実に実行されている。

今般の評価対象は、太陽光発電設備の取得資金に対する貸付を裏付けにした信託 ABL（本 ABL）である。同太陽光発電設備は、大和エネルギー・インフラが投資した太陽光発電設備をナチュラルエネルギーパートナー

ズ太陽光発電 a 合同会社（プロジェクト GK）が取得するものである。大和エネルギー・インフラはプロジェクト GK のスポンサーであるとともに、匿名組合出資を行う。プロジェクト GK は本 ABL の借入人であるジェイバリュー信託株式会社からの貸付および匿名組合出資による資金調達を行い、太陽光発電設備を取得する。ジェイバリュー信託からの貸付は、金銭信託によって調達した資金を原資として行われる。ジェイバリュー信託からプロジェクト GK への貸付実行にあたっては、諸契約の締結等が停止条件となっている。融資期間中は、太陽光発電設備の売電収入を原資とし、信託契約等によってあらかじめ決められた方法によって、受益者への元本償還および配当支払が行われる。

[スキーム図]



JCR は本 ABL の資金使途の 100%が太陽光発電設備の取得資金に充当される予定であること、および同太陽光発電設備の年間 CO<sub>2</sub> 排出削減量が 10,396 t の見込みであることを確認した。また、大和エネルギー・インフラが事業実施に際して想定され得る環境への負の影響に対し、社内の担当部署および外部の第三者機関のもとで影響を把握し、必要な回避・緩和措置を講じていることを確認した。以上より、JCR は本 ABL が環境改善効果の高いグリーンプロジェクトを対象としていると評価している。

JCR は調達資金の管理について、資金の充当計画が策定されており調達資金がグリーンプロジェクトに確実に充当されること、追跡管理が実施されること、統制が働く仕組みが構築されていることから、本 ABL に関する管理運営体制が確立されていると評価している。また、資金充当状況および環境改善効果にかかるレポート内容についても適切なものとなっていることから、本 ABL が貸付人に対する透明性を有するものであると評価している。

以上より、本 ABL について JCR グリーンファイナンス評価手法に基づき、「グリーン性（資金使途）評価」の予備評価を“g1”、「管理・運営・透明性評価」の予備評価を“m1”とし、「JCR グリーンローン予備評価」を“Green 1”とした。

本 ABL は「グリーンローン原則<sup>1</sup>」および「グリーンローン及びサステナビリティ・リンク・ローンガイドライン<sup>2</sup>」において求められる項目について基準を満たしていると考えられる。

<sup>1</sup> LMA (Loan Market Association)、APLMA (Asia Pacific Loan Market Association)、Loan Syndications and Trading Association (LSTA) Green Loan Principles 2021 <https://www.lma.eu.com/>

<sup>2</sup> 環境省 グリーンローン及びサステナビリティ・リンク・ローンガイドライン 2020 年版 <https://www.env.go.jp/press/files/jp/113511.pdf> (pp.48-89)

## 第 2 章:各評価項目における対象事業の現状と JCR の評価

### 評価フェーズ 1 : グリーン性評価

JCR は評価対象について、以下に詳述する現状およびそれに対する JCR の評価を踏まえ、本 ABL の資金使途の 100%がグリーンプロジェクトであると評価し、評価フェーズ1:グリーン性評価は、最上位である『g1』とした。

#### (1) 評価の視点

本項では、最初に、調達資金が明確な環境改善効果をもたらすグリーンプロジェクトに充当されているかを確認する。次に、資金使途が環境へのネガティブな影響が想定される場合に、その影響について社内の専門部署又は外部の第三者機関によって十分に検討され、必要な回避策・緩和策が取られているかについて確認する。最後に、持続可能な開発目標 (SDGs) との整合性を確認する。

#### (2) 評価対象の現状と JCR の評価

##### a. プロジェクトの環境改善効果について

##### i. 資金使途の 100%が太陽光発電設備の取得資金であり、環境改善効果が高い。

本 ABL の資金使途は、熊本県菊池郡にある太陽光発電設備 (本発電設備) の取得資金である。本 ABL によって調達された資金は、速やかに全額がジェイバリュー信託を通じてプロジェクト GK への貸付に充当される予定である。JCR は本プロジェクトにかかる契約書から、GK に対する貸付金がすべて本発電設備の取得資金に充当されることを確認している。本発電設備はいずれも商業運転を開始しているため、取得時点から直ちに CO<sub>2</sub>削減効果が発現する。年間 CO<sub>2</sub>排出削減量は年間発電量に事業所在地を管轄している電力会社の調整後排出係数を乗じ、JCR にて算出した。本発電設備による年間発電量は約 28,096MWh、年間 CO<sub>2</sub>排出削減量は約 10,396t となる見込みである。

以上から、JCR は対象事業の環境改善効果が高いものであると評価している。

##### (各事業の概要)

プロジェクト名	所在地	発電出力 (kW)	想定年間発電電力量* (MWh)	年間CO <sub>2</sub> 削減量** (t-CO <sub>2</sub> )
熊本菊池太陽光発電所	熊本県菊池郡大津町	22,490	28,096	10,396

\* : 大和エネルギー・インフラ提供の資料に基づく。

\*\* : CO<sub>2</sub>排出削減量計算方法 = 想定年間発電量 × 調整後排出係数(令和 2 年度)

##### ii. 資金使途は、「グリーンローン原則」および「グリーンローンガイドライン」に定義されているグリーンプロジェクトのうち、「再生可能エネルギー」に該当する。

2021 年 10 月に発表された第 6 次エネルギー基本計画において、「気候変動問題への対応と日本のエネルギー需給構造の抱える課題の克服という二つの大きな視点を踏まえて策定する」ことが掲げられた。2020 年 10 月に発表された、「2050 年カーボンニュートラル」を目指す宣言および 2021 年 4 月に発表された 2030 年度の温室効果ガス排出削減目標として 2013 年度比 46%減を目指すために、S (安全性 (Safety)) +3E (エネルギーの安定供給 (Energy Security)、経済効率 の向上 (Economic Efficiency) による低コストでのエネルギー供給、環境への適合 (Environment)) の原則を前提としてあらゆる技術を利用していくことが示されている。同計画は再生可能エネルギーについて、温室効果ガスを排出しない脱炭素エネルギー源であるとともに、国内で生産可能な

ことからエネルギー安全保障にも寄与できる有望かつ多様で、重要な国産エネルギー源であるとしており、S+3Eを前提に、再生可能エネルギーの主力電源化を徹底し、再生可能エネルギーに最優先の原則で取り組み、国民負担抑制と地域との共生を図りながら最大限の導入を促すと記載している。再生可能エネルギーが日本のエネルギー政策において果たす役割は、ますます大きなものとなっている。

これより、国内における政策課題として再生可能エネルギーは様々な観点から重視され、次世代に真に引き継ぐべき良質な社会資本とされていると JCR では評価している。

## b. 環境に対する負の影響について

大和エナジー・インフラは、グリーンローンの対象となるプロジェクトの選定にあたり、環境に対する負の影響を及ぼすリスクを想定し、外部機関による技術デューデリジェンス報告書などを通じて事前調査を行っている。また、プロジェクト選定にあたっては太陽光発電設備の設置による CO<sub>2</sub> 排出削減量が、用地整備によって減少する CO<sub>2</sub> 排出削減量を上回ることを確認している。以上から、JCR は本発電設備が環境に与える負の影響について、必要な回避・緩和措置を講じていると評価している。

## c. SDGs との整合性について

本プロジェクトは再生可能エネルギーに分類される事業であり、JCR は ICMA の SDGs マッピングに照らし、以下の SDGs の目標およびターゲットに貢献すると判断した。



### 目標 3 : すべての人に健康と福祉を

**ターゲット 3.9.** 2030 年までに、有害化学物質、ならびに大気、水質および土壌の汚染による死亡および疾病の件数を大幅に減少させる。



### 目標 7 : エネルギーをみんなに そしてクリーンに

**ターゲット 7.2.** 2030 年までに、世界のエネルギーミックスにおける再生可能エネルギーの割合を大幅に拡大させる。



### 目標 8 : 働きがいも経済成長も

**ターゲット 8.4.** 2030 年までに、世界の消費と生産における資源効率を漸進的に改善させ、先進国主導の下、持続可能な消費と生産に関する 10 年計画枠組みに従い、経済成長と環境悪化の分断を図る。



### 目標 9 : 産業と技術革新の基礎をつくろう

**ターゲット 9.1.** すべての人々に安価で公平なアクセスに重点を置いた経済発展と人間の福祉を支援するために、地域・越境インフラを含む質の高い、信頼でき、持続可能かつ強靱（レジリエント）なインフラを開発する。



### 目標 12 : つくる責任、つかう責任

**ターゲット 12.4.** 2020 年までに、合意された国際的な枠組みに従い、製品ライフサイクルを通じ、環境上適正な化学物質やすべての廃棄物の管理を実現し、人の健康や環境への悪影響を最小化するため、化学物質や廃棄物の大気、水、土壌への放出を大幅に削減する。

## 第 2 章:各評価項目における対象事業の現状と JCR の評価

### 評価フェーズ 2 : 管理・運営・透明性評価

JCR は評価対象について、以下に詳述する現状およびそれに対する JCR の評価を踏まえ、管理・運営体制がしっかり整備され、透明性も非常に高く、計画どおりの事業の実施、調達資金の充当が十分に期待できると評価し、評価フェーズ2:管理・運営・透明性評価は、最上位である『m1』とした。

#### 1. 資金使途の選定基準とそのプロセスにかかる妥当性および透明性

##### (1) 評価の視点

本項では、本 ABL を通じて実現しようとする目標、プロジェクトの選定基準とそのプロセスの妥当性および一連のプロセスが適切に貸付人等に開示されているか否かについて確認する。

##### (2) 評価対象の現状と JCR の評価

###### a. 目標

大和証券グループでは環境課題の解決に向けた姿勢を打ち出した環境 3 方針を公表している。これらの方針のもと、大和エネルギー・インフラは再生可能エネルギーへの投資を通じた CO<sub>2</sub> 排出削減や再生可能エネルギー供給への貢献等を投融資の目標としており、本 ABL の実行はそうした目標に資する取り組みの一環であると位置づけられる。

#### 環境 3 方針

##### 環境ビジョン

大和証券グループは、かけがえのない地球環境を将来世代へ引き継ぐため、本業である金融機能を活用して貢献する。

##### 環境理念

私たちは、21 世紀の持続可能な社会の形成に向けて、「地球温暖化の防止」「資源の循環的な利用」「生態系の保全」等の重要性を認識し、「金融業務を通じた環境課題解決への貢献」に努めるとともに、企業市民としても、継続的に環境負荷低減に努めます。

##### 環境基本方針

1. 本業を通じた環境への取り組み  
低炭素社会、循環型社会、共生型社会の実現に向け、金融商品・サービスの開発・提供に努めます。
2. 環境管理態勢の整備・運営  
環境管理態勢を整備し、環境活動の継続的改善に努めます。また、環境教育、啓発活動を実施し、社員の環境保全意識の向上に努めます。
3. 省資源・省エネルギー・生態系保全への取り組み  
省資源、省エネルギー技術やシステムの導入、効率的な利用（業務の効率化も含む）の推進に努めます。また、節水、リデュース（廃棄物等発生抑制）、リユース（再使用）、リサイクル（再生利用）に取り組み、循環型社会の実現への貢献に努めます。さらに、生物多様性への配慮、環境との共生等を目指し、グリーン調達の推進等に努めます。
4. 環境コミュニケーションの推進  
環境に関する情報の積極的な開示に努めるとともに、お客様をはじめ、社会との幅広いコミュニケーションを図り、取引先、地域コミュニティ、NGO・NPO 等との連携と協働に努めます。
5. 環境関連法規制等の遵守  
環境関連法令・規則をはじめ自社の環境方針等を遵守し、環境保全に努めます。

## b. 選定基準

大和エネルギー・インフラのグリーンファイナンス・フレームワークにおける資金使途の選定基準は、以下の通り定められている。

### 適格性基準

再生可能エネルギー発電プロジェクト（関係会社が実施するプロジェクトを含む）の開発、建設、運営等に関連する支出。適格プロジェクトは、太陽光発電、風力発電、地熱発電、水力発電（発電容量が 20MW を超える大型のものを除く）、バイオマス発電（廃棄物由来のバイオマス資源）であること。

JCR はこの選定基準について、環境改善効果を有するプロジェクトを対象としていると評価している。

## c. プロセス

大和エネルギー・インフラのグリーンファイナンス・フレームワークにおけるプロジェクトの選定プロセスは、以下の通り定められている。

### プロジェクトの選定プロセス

#### 1. プロジェクト選定関与者

調達資金の使途となるプロジェクトは、当社の再生可能エネルギー投資部及び経営企画部の各担当者により適格クライテリアへの適合を検討し、評価および選定が行われる。

#### 2. プロジェクト選定プロセス

対象となるプロジェクトは、社内の投資決裁機関である投資委員会にて、審議した上で最終決定したもの。投資委員会の構成員は当社取締役である。

JCR は資金使途の選定プロセスが適切であると評価している。

なお、上記の目標、選定基準およびプロセスは本評価レポートにて開示されており、貸付人に対する透明性が確保されている。

## 2. 資金管理の妥当性及び透明性

### (1) 評価の視点

調達資金の管理方法は、発行体によって多種多様であることが通常想定されるが、本 ABL により調達された資金が、確実にグリーンプロジェクトに充当されること、また、その充当状況が容易に追跡管理できるような仕組みと内部体制が整備されているか否かを確認する。

また、本 ABL 調達した資金が、早期にグリーンプロジェクトに充当される予定となっているか否か、加えて未充当資金の管理・運用方法の評価についても重視している。

### (2) 評価対象の現状と JCR の評価

本 ABL によって調達された資金は、全額がジェイバリュー信託からプロジェクト GK への融資に一括で充当される。当該融資は信託契約および金銭消費貸借契約に従い、本発電設備の取得資金に充当される。未充当資金（プロジェクト GK への融資未実行資金）については、信託口座において現金または現金同等物として管理される。

融資に関する資金の追跡管理はプロジェクト GK からの提出書類等をもとにジェイバリュー信託が行う。本 ABL が返済されるまでの間の資金管理は諸契約で定められており、信託財産の管理状況は定期的に貸付人に報告されることが予定されている。これより、資金管理に関して統制が働いていると考えられる。

本 ABL によって調達された資金は、全額がプロジェクト GK への融資に一括で充当されるため、発行当初の未充当資金はない。また、本発電設備の滅失・売却時には、プロジェクト GK から借入金の期限前返済が行われ、当該返済金を原資として本 ABL も返済される。このため、返済までの期間中も未充当資金は発生しない。

JCR は本 ABL にかかる資金管理が適切であると評価している。

### 3. レポーティング体制

#### (1) 評価の視点

本項では、本 ABL の貸付人への開示体制が詳細かつ実効性のある形で計画されているか否かを、本 ABL の実行時点において評価する。

#### (2) 評価対象の現状と JCR の評価

##### a. 資金の充当状況に係るレポーティング

本 ABL によって調達された資金は、全額がプロジェクト GK に貸し付けられる。プロジェクト GK の貸付が実行される前にジェイバリュー信託は本 ABL の貸付人に諸契約書により、資金使用について説明する予定である。

大和エナジー・インフラは、本 ABL により調達された資金が全額資金使用の対象に充当されたことウェブサイト上で開示する予定である。なお、本 ABL により調達された資金の全額がプロジェクト GK への融資を通じて本発電設備の取得資金に一括で充当されることおよび本発電設備の滅失・売却時には借入金の期限前返済が行われ、同額が本 ABL の返済に充当される予定であることから、本 ABL に関して未充当資金は発生しない。

##### b. 環境改善効果に係るレポーティング

本 ABL における環境改善効果として、以下の内容を大和エナジー・インフラのウェブサイト上で開示されることが予定されている。

- ・対象となるプロジェクトの一覧
- ・対象となるプロジェクトによる CO<sub>2</sub> 排出削減量
- ・対象となるプロジェクトによる発電量

JCR は本 ABL に関するレポーティングについて、資金の充当状況および環境改善効果の両方に関し、透明性が高いと評価している。



## 4. 組織の環境への取り組み

### (1) 評価の視点

本項では、経営陣が環境問題について、経営の優先度の高い重要課題と位置づけているか、環境分野を専門的に扱う部署の設置または外部機関との連携によって、本 ABL の実行方針・プロセス、プロジェクトの選定基準などが明確に位置づけられているか、等を評価する。

### (2) 評価対象の現状と JCR の評価

大和エネルギー・インフラは、再生可能エネルギー、インフラストラクチャーおよび資源分野への投融資推進を目的とし、大和証券グループ 100%出資のもとで設立された会社である。大和エネルギー・インフラの環境に対する取り組みは、大和証券グループの取り組みの一環として位置付けられる。以下では大和証券グループおよび大和エネルギー・インフラについて、組織の環境への取り組みを検討する。

#### a. 大和証券グループの環境に対する取り組みについて

大和証券グループは、2030 年に目指す姿として、経営ビジョン「2030Vision」を策定、その達成に向けた当初 3 年間の戦略として、新中期経営計画「“Passion for the Best” 2023」を公表している。「2030Vision」では、以下の重点分野および重点課題をマテリアリティとしている。

重点分野	重点課題
<b>人生100年時代</b> 人生100年時代を誰もが豊かに過ごせる社会の実現	1. 豊かな人生100年時代の実現に向けた家計の資産形成・保全のサポート 2. 民間資金による地方活性化の実現 3. アジア地域の経済成長を金融面から支援
<b>イノベーション</b> 社会を豊かにするイノベーションの促進と自らの変革の実現	4. 社会を豊かにするイノベーションの実現に向けた企業の新陳代謝の加速支援 5. 新たな付加価値創出に向けた事業ポートフォリオの変革 6. 唯一無二の金融プラットフォーマーとして社会の変革をリード
<b>グリーン&amp;ソーシャル</b> 脱炭素社会への移行の促進とレジリエントな社会の実現	7. 脱炭素社会の実現を支援するグリーンファイナンス/トランジションファイナンスの促進 8. 持続可能な社会の実現に資する新たな金融商品・サービスの開発・提供
<b>サステナブル経営の基盤</b> <b>ダイバーシティ&amp;インクルージョン</b> 多様な個性を認め合い、誰もが活躍できる社会の実現  サステナブルな企業経営を支える基盤の強化	9. 付加価値を提供できる人材の育成 10. 多様な個性を認め合い、誰もが活躍できる組織の構築  11. 健全で透明性の高い経営基盤の強化 12. 金融・資本市場の維持発展をリード 13. 次世代につなぐ美しい地球環境の創造 14. より良い未来のコミュニティ・社会の実現

(出典：大和証券グループ 新中期経営計画ダイジェスト版)

事業活動における環境への取り組みに関連する重点分野として「グリーン&ソーシャル」、また重点課題として「持続可能な社会の実現に資する新たな金融商品・サービスの開発・提供」が挙げられており、金融機関としての強みを生かしながら、サステナビリティに資する取り組みを推進する姿勢を示している。

2021 年度から 2023 年度を対象とした新中期経営計画において、大和証券グループでは再生可能エネルギーの投資にかかる目標として、大和証券グループの 100%子会社で再生可能エネルギーの開発・運用を行う大和エネルギー・インフラにおける再生可能エネルギー・インフラの投資残高を 2023 年度末までに 2,000 億円程度、中長期的に 3,000 億円とすることを目標としている。当該目標は、ポートフォリオのファンド化を通じた外部資本導入により、キャピタルリサイクリン

グモデルの構築、ひいては、中期経営計画の基本方針の一つである「ハイブリッド戦略による新たな資金循環の確立」に貢献するものと考えられる。

## b. 大和エネルギー・インフラの環境に対する取り組みについて

大和エネルギー・インフラは大和証券グループのネットワークを活用した再生可能エネルギープロジェクトの開発・事業投資に取り組んでおり、事業活動を通じてグローバルなエネルギー供給構造の転換に寄与することを目指している。投融資戦略については、自己資金を活用した柔軟な投融資で環境分野を中心として資産を積み上げ、証券・金融のビジネスのノウハウを生かした様々な手段で多様な投資機会を提供するとしており、大和証券グループの強みである証券・金融分野と環境の融合を企図した事業運営が行われている。

大和エネルギー・インフラは投資残高の約6割（2021年12月現在）を国内外の太陽光発電をはじめとする再生可能エネルギーに投資しており、同分野への積極的な投資姿勢を今後も継続する予定である。大和エネルギー・インフラが開発・投資を行った太陽光発電所は合計約468MW、バイオマス発電所は合計約20MWに及ぶ。本ABLの資金用途をはじめ、完工済の再生可能エネルギープロジェクトはすべて安定稼働しており、再生可能エネルギーを通じた環境に対する取り組みは着実に実行されている。

大和エネルギー・インフラは再生可能エネルギープロジェクトの開発・事業投資にあたり、必要に応じて技術コンサルティング会社等の外部専門機関等と連携し、その知見を活用している。また、本ABLによって調達した資金の用途選定およびそのプロセスにおいても、その専門的知見は十分に反映されている。

以上から、JCRは大和証券グループおよび大和エネルギー・インフラの経営陣が環境問題を経営の優先度の高い重要課題と位置づけていると評価している。

## ■評価結果

本 ABL について、JCR グリーンファイナンス評価手法に基づき、「グリーン性評価（資金使途）」の予備評価を“g1”、「管理・運営・透明性評価」の予備評価を“m1”とし、「JCR グリーンローン予備評価」を“Green 1”とした。本 ABL は、「グリーンローン原則」および「グリーンローン及びサステナビリティ・リンク・ローンガイドライン」において求められる項目について基準を満たしていると考えられる。

【JCR グリーンローン評価マトリックス】

		管理・運営・透明性評価				
		m1	m2	m3	m4	m5
グリーン性評価	g1	Green 1	Green 2	Green 3	Green 4	Green 5
	g2	Green 2	Green 2	Green 3	Green 4	Green 5
	g3	Green 3	Green 3	Green 4	Green 5	評価対象外
	g4	Green 4	Green 4	Green 5	評価対象外	評価対象外
	g5	Green 5	Green 5	評価対象外	評価対象外	評価対象外

(担当) 菊池 理恵子・梶原 康佑

## 本評価に関する重要な説明

### 1. JCR グリーンファイナンス評価の前提・意義・限界

日本格付研究所（JCR）が付与し提供する JCR グリーンファイナンス評価は、評価対象であるグリーンファイナンスの実行により調達される資金が JCR の定義するグリーンプロジェクトに充当される程度ならびに当該グリーンファイナンスの資金使途等にかかる管理、運営および透明性確保の取り組みの程度に関する、JCR の現時点での総合的な意見の表明であり、当該グリーンファイナンスで調達される資金の充当ならびに資金使途等にかかる管理、運営および透明性確保の取り組みの程度を完全に表示しているものではありません。

JCR グリーンファイナンス評価は、グリーンファイナンスの調達計画時点または調達時点における資金の充当等の計画又は状況の評価するものであり、将来における資金の充当等の状況を保証するものではありません。また、JCR グリーンファイナンス評価は、グリーンファイナンスが環境に及ぼす効果を証明するものではなく、環境に及ぼす効果について責任を負うものではありません。グリーンファイナンスの発行により調達される資金が環境に及ぼす効果について、JCR は発行体または発行体の依頼する第三者によって定量的・定性的に測定されていることを確認しますが、原則としてこれを直接測定することはありません。

### 2. 本評価を実施するうえで使用した手法

本評価を実施するうえで使用した手法は、JCR のホームページ (<https://www.jcr.co.jp/>) の「サステナブルファイナンス・ESG」に、「JCR グリーンファイナンス評価手法」として掲載しています。

### 3. 信用格付業にかかる行為との関係

JCR グリーンファイナンス評価を付与し提供する行為は、JCR が関連業務として行うものであり、信用格付業にかかる行為とは異なります。

### 4. 信用格付との関係

本件評価は信用格付とは異なり、また、あらかじめ定められた信用格付を提供し、または閲覧に供することを約束するものではありません。

### 5. JCR グリーンファイナンス評価上の第三者性

本評価対象者と JCR の間に、利益相反を生じさせる可能性のある資本関係、人的関係等はありません。

## ■留意事項

本文書に記載された情報は、JCR が、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCR は、明示的であると黙示的であるとを問わず、当該情報の正確性、結果、的確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCR は、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCR は、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかんを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であるとを問わず、一切責任を負いません。JCR グリーンファイナンス評価は、評価の対象であるグリーンファイナンスにかかる各種のリスク（信用リスク、価格変動リスク、市場流動性リスク等）について、何ら意見を表明するものではありません。また、JCR グリーンファイナンス評価は JCR の現時点での総合的な意見の表明であって、事実の表明ではなく、リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。JCR グリーンファイナンス評価は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。JCR グリーンファイナンス評価のデータを含め、本文書にかかる一切の権利は、JCR が保有しています。JCR グリーンファイナンス評価のデータを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCR に無断で複製、翻案、改変等を行うことは禁じられています。

JCR グリーンファイナンス評価：グリーンファイナンスの実行により調達される資金が JCR の定義するグリーンプロジェクトに充当される程度ならびに当該グリーンファイナンスの資金使途等にかかる管理、運営および透明性確保の取り組みの程度を評価したものです。評価は 5 段階で、上位のものから順に、Green1、Green2、Green3、Green4、Green5 の評価記号を用いて表示されます。

## ■グリーンファイナンスの外部評価者としての登録状況等

- ・ 環境省 グリーンボンド外部レビュー者登録
- ・ ICMA (国際資本市場協会に外部評価者としてオブザーバー登録)
- ・ UNEP FI ポジティブインパクト金融原則 作業部会メンバー
- ・ Climate Bonds Initiative Approved Verifier (気候債イニシアティブ認定検証機関)

## ■その他、信用格付業者としての登録状況等

- ・ 信用格付業者 金融庁長官（格付）第 1 号
- ・ EU Certified Credit Rating Agency
- ・ NRSRO：JCR は、米国証券取引委員会の定める NRSRO (Nationally Recognized Statistical Rating Organization) の 5 つの信用格付クラスのうち、以下の 4 クラスに登録しています。(1)金融機関、ブローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。米国証券取引委員会規則 17g-7(a)項に基づく開示の対象となる場合、当該開示は JCR のホームページ (<https://www.jcr.co.jp/en/>) に掲載されるニュースリリースに添付しています。

## ■本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL：03-3544-7013 FAX：03-3544-7026

株式会社 **日本格付研究所**

Japan Credit Rating Agency, Ltd.

信用格付業者 金融庁長官（格付）第 1 号

〒104-0061 東京都中央区銀座 5-15-8 時事通信ビル